

トータル支援事業の取組

～支援の必要な子どもたちを地域とともに支える～

平成18年度(2006年10月)に始まった旧琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センターで実施してきた「トータル支援事業」は、現在も新体制として継続され、その取組は本年度で15年が過ぎた。本事業は沖縄県教育委員会との共催により、教育学部との兼任のセンター長、センター専任教員、事業コーディネーターとしての技術補佐員から構成される3人のセンタースタッフ、地域の学校の現職教員・保育士・心理士・精神科医師等の構成メンバーからなる「特別研究員」、大学院や学部の学生等の多様な人材の参加により実施されてきた。また、地域との取組においては沖縄県教育委員会の離島・へき地地域を含めた6圏域の教育事務所の担当主事との連携・協力が深まることで地域の支援体制が整い、トータル支援を行うネットワークが構築されてきた。

平成29年度(2018年3月)に旧発達支援教育実践センターは現教職センターとして発展的に解消されることとなったが、「トータル支援事業」は継続事業として教職センター、教育学部、教職大学院からなる教育関連の地域貢献事業に多様な取組を通して参画・主導するかたちで再スタートすることになった。旧発達支援教育実践センターが掲げてきた「地域支援」、「人材育成」、「実践研究」という3つの柱を中心とした活動を継続で行っている。「地域の子どもたちが支援を受け、保護者の子育てを応援し現職教員、保育士、支援員、関連領域の専門家のリカレント教育の機会を提供し、大学院生や学生に実践教育の場を与え、行政等と協力して地域に貢献し実践研究を深める支援」を行っていることで、私たちはこの活動やその場を「トータル支援教室」と呼んできた。

旧発達支援教育実践センターで「トータル支援事業」の取組を通して地域の支援を必要とする子どもたちを支えてきたのは旧発達支援教育実践センターの「特別研究員」である。旧発達支援教育実践センターでは子どもたちを支援・教育する現職の教員や専門家を「特別研究員」として位置づけ、チームとして支援教育の実践や研究を実施し地域の子どもたちの力になれるよう努めてきた。現在もよりよい支援活動や地域の取組を創造的に活性化させてくれる地域の現職教員やトータル支援事業に参加した経験のある卒業生で構成される「実施担当者(支援スタッフ)」の協力を得ている。

子どもたちへの中核的な支援活動の「場」となる「トータル支援教室(‘トータル支援のすすめ’リーフレット参照)」は、子どもたちを支援するとともに子どもたちやその保護者から多くのことを学び、そして地域の教員や関連領域の職員、専門家ともに支援教育のあり方を考える場として機能してきた。「トータル支援事業」は、「支援・相談活動」、「トータル支援教室」、「実践事例研究会」による3つの事業が柱となっている(‘トータル支援活動:発達支援教育実践室ご案内’リーフレット参照)が、そのなかでも「トータル支援教室」は「支援・相談活動」、「実践事例研究会」と有機的連動的に繋がっており、本事業の中心的取組となっている。

トータル支援教室を開いています ※トータル支援リーフレット参照

毎月第2・4の水曜日 18:00～20:00, 琉球大学共通教育棟1号館4階(発達支援教育実践室)

で行います。トータル支援教室は、次の五つの支援を目的としています。

1. 地域の子どもたちの発達支援・教育支援・心理支援
2. 保護者の子育て支援
3. 学生の実践力を育てる教育支援
4. 学校との連携による現職教員の実践力養成支援
5. 行政との連携による特別支援教育支援員の実践力養成支援

子どもたちは予め決められた担当者(学校の現職教員、琉球大学教育学部や大学院の学生)による学習支援と教育学部学生による集団支援を通して、「他者と楽しさを共有する体験」を積みま
す。その間、保護者の皆さんは別室で情報交換など行っています。

発達相談・教育相談・心理相談を行っています

※案内リーフレット参照

家庭での対応や、教育・指導に関してお困りのことはありませんか。

保護者、保育士、幼稚園・学校の先生方を対象に、お子様の発達、教育、心理についての相談を行
っています。費用は掛かりませんので、お気軽にご相談下さい。電話またはメールでご予約下
さい。

専任教員 浦崎 武(教授・発達臨床心理学・特別支援教育)・トータル支援事業支援スタッフ

所在地 琉球大学共通教育棟1号館4階 (発達支援教育実践室)

電話 098(895)8428
(月～金の 10:30～17:00)

※不在の場合は留守電にお名前とお電話番号をお願いいたします。

以下の取り組みもやっています

実践事例研究会

- 毎月第3水曜日 18:30～21:00、琉球大学共通教育棟1号館4階で行います。
- 現職教員、保育士、児童精神科医、大学院生などの専門家が参加して、子どもたちの発達、教育、心理に関する現場からの事例を中心に話し合います。
- 幼少期に支援を必要としたご本人の体験報告や県外からの専門家をお招きしての講演なども行います。

巡回相談・学校訪問支援

- 巡回相談を行っています。
- 支援を必要とする子どもたちの保護者や指導教員への個別相談が中心です。
- 学校訪問による子どもへの支援検討や授業づくり等の学校支援を行っています。

公開セミナー ※プログラムについてはチラシ参照（昨年度版）

- トータル支援教室に関わった皆さんによる研究発表会が年に1回、開かれます。

地域トータル支援活動・研修会 ※プログラムについてはチラシ参照（昨年度版）

- 地域のニーズに応じた地域トータル支援活動を開催したり、学校内の研修会に出向きます。

共催・後援

- 沖縄県教育委員会（県内の6圏域の教育事務所）との共催による取組を行っています。
- 教育学部と協定を結んでいる教育委員会等との連携・協働による取組を行っています。

トータル支援活動（発達支援教育実践室）：琉球大学教育学部・教職センター・教職大学院 ご案内

保護者の皆さま・子どもの支援や教育に携わる皆さまへ

《発達相談・教育相談・心理相談を行っています》

家庭での子どもへの対応や、保育・教育現場での子どもとの関わり、子どもの対人関係、行動面、情緒面などに関して、気がかりなことやお困りのことはありませんか。先生や保護者個人でも、子どもさん同伴でも可能です。

費用は掛かりませんので、お気軽にご相談下さい。ご相談の内容について秘密は厳守いたします。

○申し込み方法○

申込方法：予約制になっております。電話またはメールでご予約下さい。

受付電話番号/メールアドレス：098（895）8428 / sien@w3.u-ryukyu.ac.jp

受付時間：月～金（祝日除く） 10時30分～17時

*不在の場合は留守電にお名前と連絡先をお願い致します。

*ご相談内容によっては他の専門機関などのご紹介をする場合があります。



《実践事例研究会を開いています》

教員・保育士・心理士など支援に関わる専門家を対象に研究会を開いています。子どもとその子どもに関わる人の姿を見つめ、多面的な視点で事例を捉え、考えることを大切にしています。年に数回、県外から講師を招いての特例会もあります。

日時：毎月第3水曜日、夕方18時半～21時

場所：発達支援教育実践室（共通教育棟1号館4階403教室）

*日時や場所の変更がある場合もありますので、お問い合わせの上ご参加ください。



《トータル支援教室を開いています》

支援を必要とする子どもたちとその保護者を対象に支援教室を開いています。
支援について学びたい教員・保育士・学生の参加も可能です。

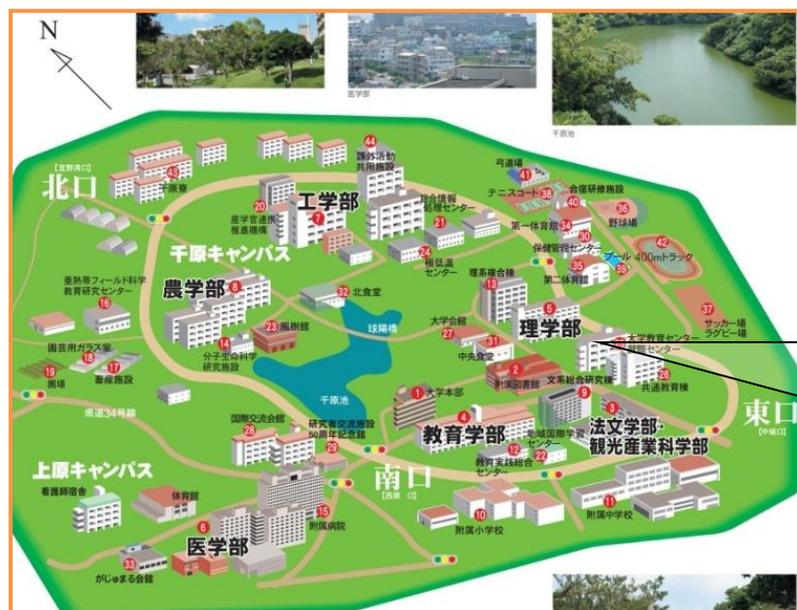
日時：毎月第2・4水曜日、17時30分～

場所：大学内にある発達支援教育実践室（共通教育棟1号館4階403教室）

支援者と子どもが1対1でその子どもに合った個別的な支援を行う個別支援(50分)。その後、学生や教員等が支援者として参加し、子ども1名に対して2名程度の支援者で1つのユニットとなり、複数のユニットで遊びや創作活動を通して支援を行う集団支援(60分)。子どもたちが活動している間、保護者の方はざくばらんに情報交換を行っています。支援教室終了後は、支援者たちで事後ミーティングを行い、子どもたちとの関わりや今日の活動内容についてふりかえります。



○場所○ 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1 共通教育棟1号館4階（発達支援教育実践室）



*25番の建物が共通教育棟1号館になります。

トータル支援事業（発達支援教育実践室） 琉球大学教育学部・教職センター・教職大学院 電話：098（895）8428 メール：sien@w3.u-ryukyu.ac.jp

ホームページ：http://www1.edu.u-ryukyu.ac.jp/torikumi/sho_center.html

＜向かう力＞を育む＜トータル支援＞ の取り組みの意義

子どもたちの＜向かう力＞を大切にしたい

私たちは2006年10月から子どもたちとともに楽しむ＜トータル支援教室＞を現在(2016年)まで続けてきました。たくましく巣立っていった＜子どもたちとの関わりや取り組み＞を私たちは＜トータル支援＞と呼んできました。私たちは子どもたちの育ちと学びに関わる多くの方に＜トータル支援＞を知っていただき、子どもたちの＜向かう力＞を大切にす支援と教育の理解と実践が広がることを願うようになりました。

「できないことがすぐにできるようにならない」子どもたちや発達障がいのある子どもたちにとって、「できないことができるようになる」体験は大きな喜びになります。しかしその一方で常に「教わり」続けなければならない受け身の存在となってしまう、子どもたちに精神的な苦しさ生まれることもあります。対人関係への世界へと歩み寄る気持ちや集団の場に参加する意欲、自己実現に向けて社会へと＜向かう力＞が萎えてしまわないよう、そのような苦しさを緩和させる取り組みが今、必要とされています。

私たちは子どもたちの「できない」側面としての部分的な能力の向上ではなく、「できなさ」を抱えたひとりの子どもを全体性(トータル)で捉え、その「できなさ」を抱えた子どもたちがいかに生きるのか、どのように「今、ここ」を「ともに楽しみ」、豊かに過ごすことができるのかを考えながら＜トータル支援＞に取り組んできました。私たちは「今、ここ」を「ともに楽しみ」、豊かに過ごすことの結果として＜向かう力＞が生まれてくると考えています。



とばせ！！ 紙ひこうき

紙ひこうきを飛ばしていると心と体が動きだす！
見ているだけでも楽しめる

全体が一つになって動いたり、かっちりとしたルールが求められたりするような活動ではなく、1人からでも取り組み、4人、5人と人数が増えても一緒に遊べるような活動です。関わりが生まれるように、虫取り網や箱を用意して、紙ひこうきを入れたり、キャッチしたり、スタートラインを引いて、せ～の！で一斉に投げたりします。



みんなのまちを つくろう！！

一人ひとりのまち作りから
みんなのまちへ。
思わずつなげたい。
遊びたい。

はじめは自分のまちを作るという個人での制作活動ですが、それぞれのピースをつなげると大きなまちができあがります。自分のまちから続いている他のまちに自然と興味が湧きやすく、車などがあれば、まちでの遊びに発展します。



うちわパタパタ ぱわミントン

オリジナルうちわで
風船を使ってバドミントン！

オリジナルのうちわをデザインして、そのうちわをラケットに風船を使ってバドミントンをする競技性のある活動です。動くのが苦手でも、オリジナルうちわは作ってみたいになったり、逆に制作が苦手でも、バドミントンをするからいつもよりモチベーションが上がったりします。



ツユコレ♪

梅雨+コレクション

オリジナルの
傘をさして水にうたれよう
声が出る！水を追う！



日常的でなじみのある傘。傘にいたずら書き感覚でオリジナル傘をデザイン！そして、その傘をさして雨音を体で感じたり、回してデザインの変化を楽しんだりして楽しめます。普段、「ともに」の活動や他者に目を向けることが苦手でも、ホースの水を追っていつの間にか相手を意識し、一緒になって遊んでいました。



ドミノ！！

単純な個人作業だけ
ど、みんなと繋がる。
見通し、手先への集中

個々での並べるという地道な作業だけど、どんなルートにしようか、間隔はどうするかなど見通しをもって取り組むことが必要です。みんなのドミノが繋がったら、倒れるドミノをみんなで見るという共有の体験や達成感も感じられる活動です。



海企画

魚釣り、砂、船、浦島太郎…様々な内容を取り込むことができる海の活動。部屋一面のブルーシートで簡単に海の世界を演出することができます。海のわくわく感で、探索したくなる、触りたくなる、思わず声が出る…ストライクゾーンの広い活動です。



年に1回、野外活動も行っています。

学校教育の中で

トータル支援を行うための1冊

特別支援学級と特別支援学校では「他者との関係性」による「遊びのなかの発達の要素」に焦点を当てることで、特別支援学校の学習指導要領に示されている「自立活動」の「健康の保持」、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「環境の把握」、「身体の動き」、「コミュニケーション」の6区分の内容(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章自立活動による第2内容)を扱うことができます。

また、通常の学級においては、自立活動に代わって「特別活動」、「生活科」等に焦点を当てた位置づけができますし、自立活動との密接な関連を保つ配慮が求められています(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章自立活動による第3指導計画の作成と内容の取扱い)。

『発達障害のある子どもとともに楽しむ ＜トータル支援＞と海を活かした教育実践』



浦崎武・武田喜乃恵 編著
発達支援教育実践センター
特別研究員執筆
共同出版(2016)

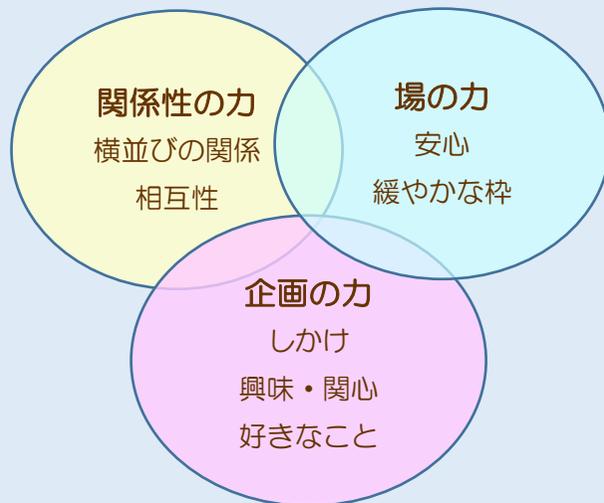
<トータル支援>で子どもたちと
<ともに楽しむ>ためには・・・。

<子どもたちとの関係性>を大切にしく魅力のある企画>を工夫し、<安心できる雰囲気>を作ること<楽しい雰囲気>のなかで取り組めるようにする。

子どもたちの<向かう力>や<楽しみ>が継続できるように、子どもたちの自然な動きに合わせて遊びのルールや子どもたちに与えられた役割を<状況や場面に応じて変えることができる柔軟な取り組み>にする。

<トータル支援>の活動の間は子どもの行動を「〇〇すべき」という枠組みのなかに当てはめることは控え、できる限り子どもたちの参加のしかたや子どもたちなりの楽しみかたを認め大切にす(支援者の<受けとめる力>が求められます)。

トータル支援の3つの柱



子どもたちのそばに

<トータル支援>の場を

やってみたくなること、関わりたくなる人、
過ごしたくなる場があれば・・・子どもがわく
わく、いきいき、るんるん。

楽しいことがあれば、元気が出て勇気が湧く・・・心がはずみ、身体が動き・・・やってみ
たい・・・きっとできるかもしれない・・・あつ、
もうできているかもしれない・・・でもできない
ことはまだまだある・・・いやできなくてもい
い・・・それでいい・・・そのままでもいい・・・で
きてもできなくても・・・また、そこへ行きた
い・・・過ごしたくなる場が・・・関わりたくなる
人が・・・やってみたくなるものが待ってい
る・・・そうだ「トータル」へ行こう。

すべての子どもたちのそばに「トータル」の
場、そしてあの人とともに、また楽しめたらいいな。
・・・みんなで遊べたらいいな・・・<ト
ータル>の場や機会があったらいいのにな

はじめの一歩のお手伝い

- ☞ 企画集や指導案、実践事例集など<トータル支援>を実施するための手引きやテキストの提供
- ☞ <トータル支援>をより楽しくするための研修会、定期実践検討会、公開講座の開催
- ☞ <トータル支援>を深めるための実践研究論文や実践報告などの資料

トータル支援ネットワークのメンバー登録により
情報を提供します

トータル支援事業（発達支援教育実践室）：
琉球大学教職センター・教育学部・教職大学院
電話：098（895）8428
メール：sien@w3.u-ryukyu.ac.jp

大切な人と、ともに「向かい」、
ともに「歩み」、ともに「楽しむ」

ご案内

:トータル支援のすすめ

学校や学級、幼稚園や保育園、
学童や療育施設で取り組んでみませんか。

トータル支援事業
(発達支援教育実践室)
琉球大学教職センター
・教育学部
・教職大学院

トータル支援事業（発達支援教育実践室）

事業の実施状況と今後の展開

<事業の取組の概要>

地域貢献事業としてトータル支援事業を継続・発展させるためトータル支援教室、教育・発達支援、教育・発達相談、実践事例研究会、公開セミナー、講義・演習、教育プログラムの開発等の地域のニーズに応じた多様な取組を発達支援教育実践室（共通教育棟1号館4階）において実施してきた。本事業は沖縄県教育委員会との共催・協働事業として毎年度、継続的発展的に開催しており、昨年度は、コロナ禍のなか地域での取組を含め少人数による支援教室やオンラインによる授業実践の見学会等、支援企画7回、実践事例研究会3回、教育相談や臨床支援等、教職支援33セッション（時間）を実施し延べ46人が、本事業に参加した。

また、地域志向教育を推進する体験型実践教育、現職教員の再教育、近隣地域・離島やへき地の障害児への教育・支援等の人材育成等の地域貢献の取組「トータル支援活動」を基盤とする「戦略的地域連携推進経費（地域協働プロジェクト推進事）」、「地域協働萌芽プロジェクト」を実施した。トータル支援事業や多様な事業に参画することを通して「発達支援教育実践室」の支援機能を活性化させ、学生や現職教員の実践力養成教育や地域貢献事業の発展に向けて取り組んだ。

また、沖縄県教育委員会との連携においては、県内各圏域におけるインクルーシブ教育システム整備事業に基づく、平成30年度からの沖縄県の特別支援教育のテーマである「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する関係機関等との連携と特別支援教育の推進に繋がる取組（沖縄県特別支援教育総合推進事業運営協議会より）」の拡充に寄与することを目的として、各事業および各取組を実施した。

<大学拠点型事業>：平成18年（2006年）～

1. トータル支援事業：大学拠点型事業 共催 沖縄県教育委員会

①トータル支援教室：年14回開催（15年間で213回開催：延べ7642名参加）

支援スタッフ：センタースタッフ・特別研究員・現職教員・院生・学部生

支援対象：県内の発達障害児等支援・保護者子育て支援

②教育・発達相談支援・発達臨床支援：予約により随時実施

（15年間で1453事例：9135セッション実施）

支援地域：離島・へき地を含めた県内6圏域および那覇市、宜野湾市等、近隣地域から来室

対象：障害児、保護者、教員、保育士等

③実践事例研究会：月1回開催（15年間で151回開催：延べ2564名参加）

対象：現職教員、支援員、医師、心理士、保育士、関係職種等

④発達支援教育実践セミナー：年1回開催

(15年間で15回開催：合計2195名参加)

センター事業成果報告、基調講演、実践報告会を実施した。

事業名：発達支援教育実践セミナー

共 催：沖縄県教育委員会

場 所：琉球大学法文新棟215教室

<地域拠点型事業>

1. トータル支援事業：地域協働事業 共催 沖縄県教育委員会

協働機関：八重山教育事務所、宮古教育事務所、国頭教育事務所、島尻教育事務所、中頭教育事務所、那覇教育事務所、宮古福祉保健所

教育学部協定：南部教育研究所、石垣市教育委員会

実施期間：平成18年(2006年)～

本事業は①大学を拠点に取り組んできた発達障害児・者への支援・教育活動、アクティブラーニングによる「トータル支援活動」を通して学部や大学院の学生、実施担当者(旧特別研究員：現職教員)等の支援スタッフと他領域の人材や組織との連携・協働を通して、現職教員、支援員、関係者の実践力養成機能を充実させ、幼児期から就労までの一貫した教育・支援力養成の体制を構築する。②県内の各圏域の教育事務所や教育委員会で「トータル支援活動」を実施し、実践や実践事例を検討するための体制を整備する。地域の文化的歴史的特性を理解し地域の他職種の人材を交えた「チーム支援」により、現実の学校の課題解決を目指す。③地域の課題に対応できる人材育成および地域人材ネットワークを構築し、障害児・者を継続的に支援する地域連携支援と実践力養成の有機的システムを整え、各地域間の連携・協働が可能となる体制を整備する。段階的に障害児・者への支援と支援者の実践力を育成する拠点を各圏域に構築することを目標としている。

令和2年度の取組

①国頭地域支援事業：国頭トータル支援教室：年1回

場所：国頭教育事務所 時：12月12日(土)

②中頭地域支援事業

i 中頭トータル支援教室(野外活動)：年1回

場所：琉球大学構内 時：7月25日(土)

ii 「トータル支援活動」(小学校での実践-校内研)

場所：宜野湾市立大謝名小学校 時：11月18日(水)

③那覇・浦添地域支援事業：トータル支援に基づく教育実践

場所：石嶺小学校 時：通年

④島尻地域支援事業：島尻トータル支援教室：年1回

場所：島尻教育事務所 時：第1回8月18日(火)、第2回10月3日(土)

⑤宮古地域支援事業 宮古トータル支援教室：年1回

新型コロナの影響により中止

⑥八重山地域支援事業（下記、＜令和2年度戦略的地域協働推進事業＞において記載）

＜令和2年度戦略的地域連携推進経費：地域協働プロジェクト推進事業＞

1. 地域協働型事業（戦略的経費事業）

事業名：「離島・へき地における支援を必要とする子どもたちへの「トータル支援活動」と地域協働教育ネットワークの構築」事業：『夢・希望実現プロジェクト』

協働機関：沖縄県教育委員会、八重山教育事務所、宮古教育事務所、国頭教育事務所、島尻教育事務所、中頭教育事務所、宮古福祉保健所
教育学部協定：石垣市教育委員会

2. 『夢・希望実現プロジェクト』－『早期支援連絡会』の開催

－地域課題解決に向けた学校および関係機関との連携・協働ネットワーク事業－

本事業では①八重山地域での特別支援学級、通級指導教室、交流学級を担当する教員の人材養成を行う実践研修体制、②石垣市の非行や不登校、貧困家庭、支援を必要とする子どもや障害の子どもの養育環境・家庭環境の理解とその環境下にある子どもの支援体制、③地域教育の課題解決に向けた保育園（所）、幼稚園、認定こども園等の幼児教育施設と小学校による「早期支援連絡会」の開催による気になる子どもの引継ぎ体制、④中学校から高校、中学校から就労等の地域への協働支援体制、⑤地域の自治体、公的機関、地域組織や団体の人的資源の活用による地域協働教育ネットワーク体制、以上①～⑤の構築を目指した。離島・へき地における学校等の教育機関や関係機関との連携・協働による支援・教育を「トータル支援活動」を通して実施した。離島・へき地の地域課題の解決とそのための人材育成を目指した。

3. 地域拠点型事業（八重山教育事務所・石垣市教育委員会）

：実施期間：令和2年7月～令和3年3月

＜琉球大学後援財団経費活用＞

事業名：「本島と離島・へき地における支援の必要な子どもたちへのトータル支援活動と公開支援セミナー」

共催：八重山教育事務所 教育学部協定：石垣市教育委員会・竹富町教育委員会

場所：八重山教育事務所

①八重山地域協働支援事業（トータル支援ネット IN 八重山）

時：第1回7月17日（金）、第2回8月28日（金）～30日（日）

参加支援者：八重山地域特別研究員・学生・現職教員・関係職種職員・支援スタッフ

支援：八重山地域の発達障害等のある子ども達への支援・保護者子育て支援プログラム

②教育・発達相談支援

第1回 時：7月17日（金）

参加者：保護者、教員、支援員、福祉職員

③八重山トータル支援ネット協働会議

第1回 時：8月28日（金）

参加者：「早期支援連絡会」の開催にむけた小学校の校長および幼児教育施設の園長（所長）

④オンラインによる研修会

第1回 時：8月29日（土）テーマ：特別支援教育と授業実践

参加者：教員、支援員、福祉職員、その他関連領域の専門家

⑤トータル支援教室IN 八重山

第1回 時：8月30日（日）

⑥学校巡回支援・継続支援

令和2年7月～令和3年3月

4. 訪問学校および関係機関・部局との連携・協働

ー地域課題解決に向けた学校・関係機関・地域支援と訪問開催回ー

①石垣市内9小学校新1年生の行動観察と担任支援 合計37回

石垣小3回、新川小3回、真喜良小8回、登野城小5回、平真小6回、八島小4回
大浜小2回、宮良小2回、白保小4回

②小学校の校長との早期支援連絡会の打ち合わせ 合計9回

石垣小1回、新川小1回、真喜良小1回、登野城小1回、平真小1回、八島小1回
大浜小1回、宮良小1回、白保小1回

③幼児教育施設での5歳児の行動観察と園長との早期支援連絡会の打ち合わせ 合計37回

新栄町こども園5回、まきらこども園4回、第2まきら保育園2回、みやら保育園1回、
みやら子宝保育園1回、ぱいぬしまきのこほいくえん1回、まきら保育園1回、にしの
もり保育園1回、みよし保育園1回、さくら保育園1回、ふくぎの郷保育園1回、サン
ライトこども園1回、海邦保育園1回、海邦第2保育園1回、緑ヶ丘保育園1回、エン
ゼル保育園1回、やしの実保育園1回、しらうめ保育園1回、あいの保育園1回、海星
幼稚園1回、大川保育所1回、ちいろば保育園1回、オリブ保育園1回、ひまわりっこ
保育園1回、アスク真栄里保育園1回、こどもの家保育園1回、太陽の子保育園1回、
竹の子の森保育園1回、認定こども園なごみの広場保育園1回

④連携機関 合計33回

八重山教育事務所3回、石垣市教育委員会20回、石垣市子ども未来局子育て支援課
8回、石垣市子ども未来局子ども家庭課2回

<令和2年度地域協働萌芽プロジェクト>

事業名：「離島・へき地と近接地域の貧困等による深刻化する養育環境を踏まえた「学
校の不応答」の子どもへのトータルな地域協働支援」事業：『夢・希望実現プ
ロジェクト』

協働機関：沖縄県教育委員会、八重山教育事務所、宮古教育事務所、宮古福祉事務所
教育学部協定：石垣市教育委員会

①石垣市内9小学校における学校訪問 合計16回

石垣小1回、新川小1回、真喜良小3回、登野城小3回、平真小3回、八島小2回
大浜小1回、宮良小1回、白保小1回

<今後の事業の展開>

「トータル支援教室」を中核の活動とする「トータル支援事業」は、①大学を拠点とした地域貢献、教育、研究活動を中心とする第1次段階、②「出前支援プログラム」を行う第2次段階で「トータル支援教室」、「実践事例研究会」、「相談支援」等の取り組みを定着させ、さらに、③第3次計画では大学から離れた離島・へき地へ地域連携型支援を目的に位置づけ「協働による子どもたちへの支援および教員、支援者の実践力養成システムの構築」、④最終的には第4次計画として「地域主導型の支援体制の構築」を目指してきた。⑤第1次計画から第4次計画までの各ステージの取組と並行して第5次計画では八重山の地域課題解決の支援体制整備（地域主導型実践力養成と地域主導型子ども支援）の構築を位置付けている（図1）。

この第1次計画から第5次計画は各地域における取組の進捗状況を示す計画のステージのみを示すものではなく、多様な連携による支援の形態や支援の方式を示すものとなっている。従って、①第1支援方式（第1次計画）は、大学拠点型教育・事業（参加型近隣地域支援）連携支援体制であり、大学を中心として開催している「トータル支援教室」、「発達・教育相談」、「実践事例研究会」等による学校支援・個別支援現職教員、学生、支援員、高度専門職業人のための協働による実践力養成支援の形態。②第2支援方式（第2次計画）は、出前型連携支援体制であり、近隣地域や離島・へき地への「出前支援・出張相談会」、「実践事例研究会」等による支援および実践力養成支援の形態。③第3支援方式（第3次計画）は、離島・へき地等の地域との協働による支援体制であり、「出前トータル支援教室」、「実践事例研究会」、「協働会議（情報交換会）」、「出張発達・教育相談会」等による支援および実践力養成の形態。④第4支援方式（第4次計画）は地域拠点型連携支援体制の構築を目指した、離島・へき地地域主導による「地域主導型トータル支援教室」を通した子ども支援および実践力養成支援の形態。⑤第5支援方式（第5次計画）として地域の課題解決に向けた支援体制の構築を目指す形態。本事業はこの5つの支援方式により地域支援事業を行っていく。

令和2年度は、第4支援方式（第4次計画）として位置付けている八重山教育事務所と石垣市教育委員会との共催で開催している、地域拠点型の「トータル支援教室 in 八重山」の活動は12年目に入った。また、八重山の地域スタッフが中心となる八重山トータル支援ネットワークによる協働会議は本年度で11年が過ぎた。近年は子どもの遊びについて関心のある保育士や幼児教育に携わる地元教員の協力が得られており、令和2年度も地域のこども園のスタッフの協力を得ることができた。

令和2年度の「トータル支援教室 IN 八重山」は新型コロナの影響により、通常は一度に1回、開催しているプログラムを、2回に分散して7月に「相談会」、8月に「トータル支

援教室」を開催した。八重山においては「トータル支援教室」、「協働会議（情報交換会）」、「発達・教育相談会」を従来通りに実施したのに加え、「幼児教育施設と小学校との早期支援体制整備に向けた校長会」等による第5支援方式（第5次計画）の取組を石垣市教育委員会、石垣市福祉部未来局（子育て支援課、子ども家庭課）との連携により実施した。

また、第3次支援方式（第3次計画）の段階にある宮古における宮古福祉事務所との連携による「トータル支援教室 IN 宮古」の取組は、令和2年度で9年目を迎えたが、新型コロナの影響により令和元年度と同様、令和2年度も中止となった。次年度からは免許更新講習における宮古、八重山の研修を積極的に引き受け、研修を受ける機会を増やしたい。

中頭教育事務所との共催で実施している大学敷地内での野外活動、「トータル支援教室 IN 中頭」は11回目となった。また、旧発達支援教育実践センターが共催を引き受けてきた沖縄特別支援教育研究会の研究発表会は、教職センターとの共催として引き継がれ、12月には10回目の記念大会として開催される予定であった。しかしこの研究発表会も新型コロナの影響により中止になった。本研究会は実践研究を報告された教諭たちとともに実践を議論し学び合う場となっており、県内特別支援教育の実践の大きな発信の場となっている。今後も研究発表会の開催を共催していく予定である。

令和2年度の発達支援教育実践セミナーは第15回目の記念大会となった。新型コロナの影響により一般告知のない関係者の参加のみで開催することができた。参加者をオンラインとliveに分散して実施した。滝川一廣氏（あなはクリニック）にオンラインで指定討論者として参加して戴き、「トータル支援教室」の事業報告や実践研究の成果報告を行った。

旧発達支援教育実践センターの本事業はその取組が県内、県外に認知されるとともに、新体制へと引き継がれており、今後もより一層の地域貢献を行う予定である。

地域支援プロジェクト計画

第1次計画：大学拠点型（参加型）連携支援体制の構築（近隣地域支援）

（現職教員、学生、支援員、高度専門職業人のための協働による実践力養成支援）

第2次計画（第2支援方式）：出前型連携支援体制の構築（離島・へき地支援、実践力養成支援）

第3次計画（第3支援方式）：地域との協働による実践力養成システムの構築（離島・へき地との協働・連携による支援、実践力養成支援）

第4次計画：地域拠点型連携支援体制の構築（離島・へき地主導による実践力養成支援 実践力養成支援）

第5次計画：地域課題解決支援体制整備（地域課題解決のための実践力養成支援 実践力養成支援）

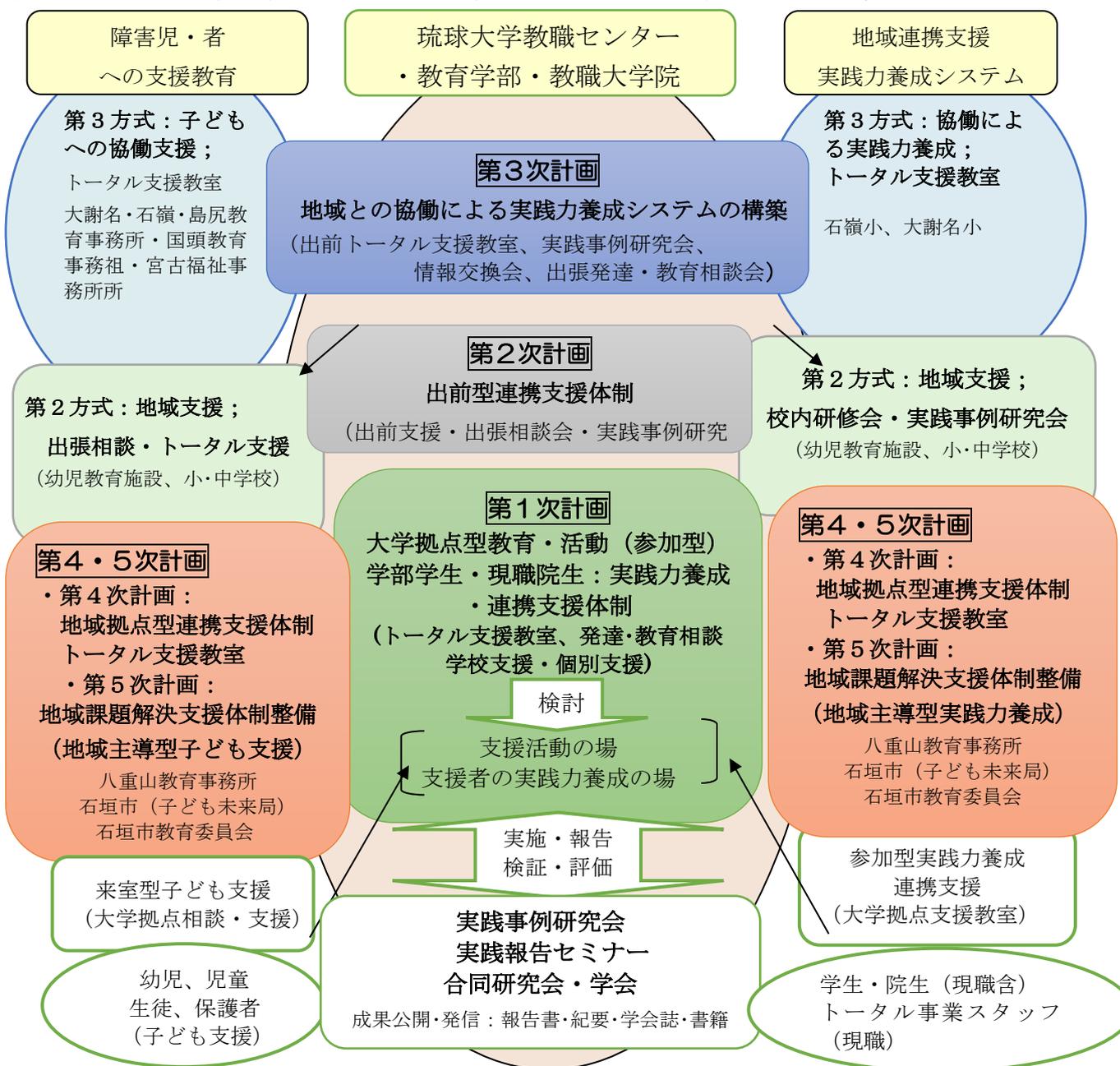


図1 地域支援プロジェクト計画

昨年度版
支援教室・研修会の申込み締切り
令和2年8月26日(水)

第3報

無料

オンライン活用による

～支援を必要とする子どもたちのためのトータル支援事業～

トータル支援教室in八重山

- 主催：琉球大学（教職センター・教育学部）
：発達支援教育実践室）
- 共催：沖縄県教育委員会
- 協定：石垣市教育委員会・竹富町教育委員会
- 日程：令和2年8月28日（金）～30日（日）
- 場所：28日縮小協働会議－石垣市教育委員会2階
：29日オンライン研修－石垣市教育委員会2階
：30日少人数支援教室－八重山合同庁舎5階

子どものよさを
生かすこと

今、もっている力を
生かすこと

1. 少人数支援教室 (申込受付は裏面)

8月30日(日) 13時30分～15時30分 場所：八重山合同庁舎5階
※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により延期または中止する可能性があります。
対象：保護者と子ども、教員、保育士、支援員、関連領域の専門家等

①事前説明会(10分) ②集団支援(50分) ③事後ミーティング(50分)

支援を必要とする子どもたちへの少人数支援です。主に幼児から小学生のお子さんとその保護者4組程度の参加を受け付けています(教員・保育士のみ参加の場合、オンラインによる見学になります)。少人数の場で“誰かと一緒に何か共有する”体験を積み重ねる中で、子どもの全体的な発達、社会性が育っていくという視点を大切にしています。先生や保護者の方には普段とは違う場で子どもを見ることで日々の関わりをふりかえったり、関わりについて学ぶ機会になればと思っています。

服装は動きやすく汚れても大丈夫なものでいらしてください。お子さんの参加は、保護者が付き添えること、また、兄弟姉妹をお連れする場合はその旨を申し込み用紙にご記入ください。

2. オンラインによる特別支援教育 (自立活動)と授業実践の研修会 (申込受付・確認事項は裏面)

共催：八重山特別支援学級校長会
・石垣市特別支援学級連絡協議会
8月29日(土) 13時30分～16時30分(関係者のみ)
場所：オンライン配信会場：石垣市教育委員会2階
対象：教員、保育士、支援員、関連領域の専門家等

子どもたちとの関わりで困っていることについての報告を戴き、日々の関わりをふりかえり、多様な子どもたちの理解と支援教育・授業実践について学びます。自立活動の6区分の発達の理解と教科教育との関連性等、自立活動を実践する意義や方法について、八重山地域における子どもたちの様子や学校が抱える課題を踏まえて、子どもたちの理解や支援教育の姿勢や支援のあり方を考えます。特に発達の視点による遊び的な要素の活用法を学びます(教員研修用：別刷チラシ参照)。

3. 縮小協働会議 (関係者のみご案内)

8月28日(金) 10時30分～12時(教育・福祉関係者のみ)
※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により縮小して行います。
場所：石垣市教育委員会2階
対象：関係の小学校校長、教育・福祉関係課長・主事等

夢へと「向かう力」を秘めた多様な子どもたちの希望への歩みを支える『夢プロジェクト』事業における、「共生社会」の実現に向けた「地域課題・学校課題の解決」と切れ目のない一貫した支援に向けた『情報交換・意見交換会』を開催します。関係の小学校校長、教育・福祉関係課長・主事等が集まり、八重山地域における子どもたちの日常生活や学校が抱える課題についての情報交換を行い、課題解決に向けた実態や実状の把握および関係機関との連携・協働支援体制の構築について考えます(実施要項参照)。

申込先：沖縄県教育庁八重山教育事務所
担当： @pref.okinawa.lg.jp
TEL:0980(82)3622 FAX:0980(83)7606

問合せ：琉球大学(教職センター・教育学部)
：発達支援教育実践室)
担当：浦崎 mail: sien@w3.u-ryukyu.ac.jp
TEL/FAX:098(895)8428

※確認・注意事項について：オンライン研修会の注意事項・お申込み用紙は裏面にあります。
ご記入戴き、FAXを下さい。

昨年度版

令和2年8月12日（水）相談会・申込締切
令和2年9月29日（火）集団支援・申込締切



～支援を必要とする子どもたちのためのトータル支援ネットワーク～

トータル支援教室IN島尻

- 主催：琉球大学（教職センター・教育学部
：発達支援教育実践室）
- 共催：沖縄県教育委員会・協定：島尻教育研究所
- 日程：個別相談会：令和2年 8月18日（火）
集団支援教室：令和2年10月 3日（土）
- 場所：島尻教育階事務所2

子どものよさを
生かすこと

今、もっている力
を生かすこと

1. 個別相談会

8月18日（火）10時～16時10分

場所：島尻教育事務所2階 対象：幼・小・中・高教員、保育士、保護者

お子さんの家庭での対応や、保育・教育現場での関わり、お子さんの対人関係、行動面、情緒面、学習面などに関してお困りのことはありませんか。先生や保護者個人でも、お子さん同伴でも可能です。1回の相談時間は50分。5枠受け付けています。お気軽にご相談ください。

相談担当者：浦崎武（教職大学院・教職センター臨床心理士）

2. 集団支援教室

10月3日（土）13時30分～15時30分 場所：島尻教育事務所2階

対象：保護者と子ども、教員、保育士、支援員、心理士、福祉職員等

①事前説明会（10分）②集団支援（50分）③事後ミーティング（50分）

支援を必要とする子どもたちへの集団支援です。主に幼児から小学校のお子さんとその保護者4組の参加を受け付けています。保育士や教員の参加・見学も可能です。集団の場で“誰かと一緒に何かを共有する”体験を積み重ねる中で、子どもの全体的な発達、社会性が育っていくという視点を大切にしています。先生や保護者の方には普段とは違う場で子どもを見ることで日々の関わりをふりかえったり、関わりについて学び合う機会になればと思っています。

服装は動きやすく汚れても大丈夫なものでいらしてください。お子さんの参加は保護者が付き添えること、また、兄弟姉妹の参加は基本的に受け付けていませんが、お連れの場合はその旨を申し込み用紙にご記入ください。

申込先：沖縄県教育庁島尻教育事務所
担当： @pref.okinawa.lg.jp
TEL:098(998)4416 FAX:098(998)4131

問合せ：琉球大学（教職センター・教育学部
：発達支援教育実践室）
担当：浦崎 sien@w3.u-ryukyu.ac.jp
TEL/FAX:098(895)8428

お申込み用紙は裏面にあります。ご記入後、FAXもしくはmailしてください。





～支援を必要とする子どもたちのためのトータル支援ネットワーク～

トータル支援教室IN国頭

- 主催：琉球大学（教職センター・教育学部）
：発達支援教育実践室
- 共催：沖縄県教育委員会
- 日程：令和2年12月12日(土)
- 場所：北部合同庁舎2階（名護市大南1-13-11）

子どものよさを
生かすこと

今、もっている力
を生かすこと

オンライン相談も可能です。

1. 個別相談会

12月12日(土) 9時30分～12時30分

場所：北部合同庁舎2階 対象：幼・小・中・高教員、保育士、保護者

お子さんの家庭での対応や、保育・教育現場での関わり、お子さんの対人関係、行動面、情緒面、学習面などに関してお困りのことはありませんか。先生や保護者個人でも、お子さん同伴でも可能です。1回の相談時間は50分。3枠受け付けています。お気軽にご相談ください。

相談担当者：浦崎武（琉球大学・臨床心理士）

2. 事例検討&関係者協働会議（関係者のみ）

12月12日(土) 13時30分～14時30分 場所：北部合同庁舎2階 対象：関係者（支援従事者のみ）

子どもとの関わりの事例（教育・福祉等）に関する報告を戴き、日々の関わりをふりかえり、様々な立場や領域の考えや意見交換を行います。また、事例を絡めながら国頭地区の実情についての情報交換も行います。

3. 少人数支援教室

12月12日(土) 15時～17時 場所：北部合同庁舎2階

対象：保護者と子ども、教員、保育士、支援員、心理士、福祉職員等

①事前説明会（10分）②集団支援（50分）③事後ミーティング（50分）

支援を必要とする子どもたちへの集団支援です。主に幼児から小学校のお子さんとその保護者3組の参加を受け付けています。保育士や教員の参加・見学も可能です。集団の場で“誰かと一緒に何かを共有する”体験を積み重ねる中で、子どもの全体的な発達、社会性が育っていくという視点を大切にしています。先生や保護者の方には普段とは違う場で子どもを見ることで日々の関わりをふりかえったり、関わりについて学び合う機会になればと思っています。

服装は動きやすく汚れても大丈夫なものでいらしてください。お子さんの参加は保護者が付き添えること、また、兄弟姉妹の参加は基本的に受け付けていませんが、お連れの場合はその旨を申し込み用紙にご記入ください。

申込先：沖縄県教育庁国頭教育事務所
担当： @pref.okinawa.lg.jp
TEL:0980(52)2664 FAX:0980(54)2229

問合せ：琉球大学（教職センター・教育学部）
：発達支援教育実践室
担当：浦崎 sien@w3.u-ryukyu.ac.jp
TEL/FAX:098(895)8428

お申込み用紙は裏面にあります。ご記入後、FAXもしくはmailしてください。

(昨年度版)
オンラインセミナー
参加無料

関係者のみ
メールにて申込
(人数制限あり)

第15回 発達支援教育実践セミナー

＜オンラインによる実践報告&研修会＞

養育環境・家庭環境の影響を受ける 子どもへの支援と教育

日にち 令和3年2月28(日) 時間 13時30分～17時
13時受付開始

配信会場 琉球大学 法文新棟215教室

対象 教育、保育、福祉等に携わる関係者のみ

主催 琉球大学(教職センター・教育学部
：発達支援教育実践室)

共催 沖縄県教育委員会

申し込み方法

下記の申込先にメールまたはFAXで、①所属・職、②氏名、
③オンライン用のメールアドレス、を記載して申し込み下さい。

※確認・注意事項1：オンラインセミナーではZoomを使用します。参加のためにはパソコンまたはスマートフォン等の使用が必要となります。そのため申込にはメールアドレスを記載して下さい。参加者の人数制限を行います。

その場合、(申込みを済ませた上)当日の開催時間までに参加招待メールの届いた方のみの参加とさせていただきます。

※確認・注意事項2：研修会の前回の接続機器の操作への対応はできません。Zoomの操作については事前に学習しておくことをお勧めします。こちらから参加者へセミナー開始2時間程度前から記載アドレスに招待メールを送付しますので、本文中に記載されたZoomミーティングに参加する「参加URL」をクリックして参加して下さい。

※確認・注意事項3：今回は初のオンラインセミナーになります。オンラインの接続上、オンライン環境の影響や機器の不具合等の理由により、接続に支障が生じて研修会の視聴ができなくなる場合があります。そのようなトラブルが生じた場合は参加ができなくなる可能性があります。初の試みのためトラブルの対応には限界がありますのでご了承下さい。

※確認・注意事項4：新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりセミナーが延期あるいは中止する場合があります。

申込先・問い合わせ：琉球大学

(教職センター・教育学部：発達支援教育実践室) sien@w3.u-ryukyuu.ac.jp

電話：098(895)8428/FAX:098(895)1631

裏面に➡

プログラム

● 1部：13時35分～15時

話題提供

◎セミナー主旨：養育環境・家庭環境の影響を受ける子どもたちへの支援と教育
— 離島での支援体制づくり（幼児教育施設と小学校の連携） —

浦崎 武（教職大学院 教授）

◎子どもたちの自己肯定感を育む石垣市教育委員会の取組
— 「勇気づけの教育」について —

前三盛 敦（石垣市教育委員会 学校教育課 課長）

◎養育環境や家庭環境による支援が必要とされる可能性のある子どもたちへの
支援体制作り — 「早期支援連絡会」の取組について —

小林 弘樹（石垣市教育委員会 学校教育課 主事）

全体討論

● 2部：15時10分～17時

話題提供

◎養育環境・家庭環境の影響を受ける子どもに対する授業実践について

又吉 美和子（那覇市立石嶺小学校 教諭）

◎養育環境・家庭環境の影響を受ける子どもに対する学校における取組について

瀬底 正栄（糸満市立米須小学校大渡分校 教頭）

指定討論

滝川 一廣（あなはクリニック 精神科医）

全体討論